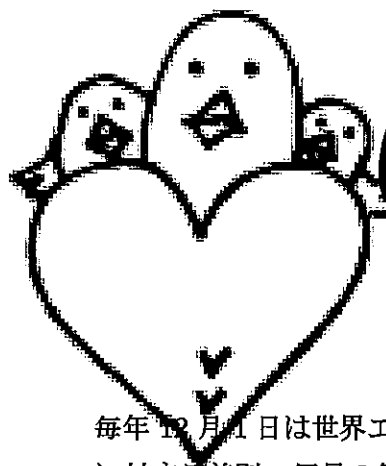




12月1日は世界エイズデーです

いのちつなぐ こころ

～ HIV エイズとわたしたち ～

No.4

2005 年 12 月 1 日

発行／厚木YMCA

毎年 12 月 1 日は世界エイズデーです。この日は世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的に定められました

今年のキャンペーンテーマは「エイズ...あなたは『関係ない』と思っていませんか？」。

昨年 1 年間に新たに報告があった日本の HIV 感染者・エイズ患者者数は、合計で 1165 件と初めて 1000 件を超え、過去最高となりました。世界の先進国のうち、現在も感染者・患者数が増え続けているのは日本だけです。

最近の広告に「彼氏の元カノの元カレを知っていますか？」というフレーズがありました。「自分は大丈夫」という人、多いと思います。しかしこの病気は特別な誰かだけの問題ではなく、きちんとした知識を持てば防げるし、寿命を全うすることもできるものなのです。

「関係ない」と思うことが自分にとって、感染者にとって、社会にとって『損』になることを忘れないで欲しいと思います。



冬のエイズボランティア養成講座より

11 月 26 日(土) 於：厚木YMCA / 12 月 4 日(日) 於：横浜中央YMCA

エイズと共に生きる：アフリカ編 講師・林 達雄氏(アフリカ日本協議会代表)

ホワイトバンドキャンペーンを知っていますか？「ほっとけない世界のまずしさ」をキーワードに一人一人が貧困について知り、意識して、政府に貧困を重要な課題にするように訴えていこう、というキャンペーンです。このキャンペーンで意思表示であるホワイトバンドは 400 万本。「貧困」の背景には様々な課題があります。しかし事実として言えるのは、「世界では地球上すべての人々が生きていくのに必要な毎日 3500 キロカロリーを摂取するのに十分な穀物が生産されていて、豊かな国は残飯を大量に捨てている。反対に貧しい国の人々には食べ物がない。」...これと同じ現象が HIV エイズ問題にも起きていたのです。

エイズは不治の病ではありません。画期的な治療薬の出現によりウィルスの増殖を抑えエイズを発症せずに生活できる可能性が高まりました。しかしこの薬は途上国に暮らす貧しい感染者には届きません。価格が高いからです。さらに世界の特許制度を先進国並みにハードなものにするという協定(貿易関連知的所有権協定)により、エイズ治療薬を自分で作る能力のある国でも、薬を作ることが困難になっていました。「本当に必要なところに薬はない、エイズのないところに薬がある」、助かる命と死を待つだけの命ができてしまったのです。これに対して立ち上がったのが、南アフリカの HIV 感染者たちでした。南ア政府は、緊急時に世界の安い市場から薬を買い付けることができるという条項を含んだ薬事法を制定したのですが、これが特許制度を冒しているとして、先進国の多国籍製薬企業に一齐に提訴されました。この反応にたじろいだ南ア政府を支えたのが HIV 感染者たちです。南アフリカでエイズ治療薬を求める感染者たちの団体は、この裁判に「法廷の友」として参加、政府とともに裁判を闘い南アフリカ国内でエイズ治療薬へのアクセスを求めてパフォーマンスや大きなパレードなどを開催しました。さらに世界の HIV 陽性者のグループや途上国のエイズ問題に関心を寄せる人々に呼びかけて、40 万人におよぶ署名を世界中から集めました。そして裁判は勝利、今ではこれらの多国籍製薬企業も、途上国のエイズ問題への医療支援や安価な薬の流通に力を入れています。

これは医者でも、治療の専門家でも、政府でも、国連の代表でもない、感染者と普通の市民たちの声が動かした結果です。日本を含め、アジア諸国では HIV エイズ対策が急務とされています。つぎは私たちの番です。

(文字ばかり～)

